

あとがき

2004年、人里に出て捕殺された多くのツキノワグマがきっかけで、野生動物やその棲みかである自然環境の大切さを再確認することとなりました。以来その価値観の基、様々なことを知り得た結果、豊かな生態系がある地球環境によって私たちの早くて便利、快適といった豊かな(?)生活が成り立っていることに気づきました。

ところで、「もったいない」とは、2つの意味が含まれている言葉で、「勿体が無い」ということ。つまり尊い(大事)が無くなる(無駄になる)という事ですね。地球という「勿体」をできるだけ壊さないような生活をするのが、私にできることだと考え、日々を見直してみました。

2005年より、自身の環境に配慮し暮らしの工夫をまとめたり、友人や知人に声をかけ、玄関先や井戸端会議などで少しずつ情報収集を始め、2007年11月、編集において、当時こまつ環境パートナーシップ、スタッフの方にもご協力をいただき発刊することができました。

今年度、推進員が普及啓発する際に活用できるツールとして2015年12月に開催された中部ブロック合同推進員研修会で「もったいない集」が大変好評であったことから、内容を一部改訂し発刊に至りました。

『地球にやさしい人を増やしたいと思い活動しています。』

ご近所さんのもったいない集

2007年11月 初版

2010年 4月 一部改訂

発行者 こまつ環境パートナーシップ
「もったいないねプロジェクト」

2015年12月 一部改訂

著 者 中出 里美

編 集 石川県地球温暖化防止活動推進員ツール作成グループ

発行者 (公社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議
(石川県地球温暖化防止活動推進センター)

みお まき おとこ
水撒男 道路に打ち水
している人
底に穴を空けた桶に水を入れて
歩き回る。



お店の前にまいて、すずしくするのと同時に
ほこりもかからないので人気だった。